

333I Arts Chiyoda オープンスタジオプログラム 01 『開発くんがきた!』

開発好明(アーティスト)

開発好明さんは6月よりスタートする333Iアーティスト&キュレーターレジデンスのモデルケースとして招聘されました。

333Iにて滞在制作中のアーティスト、開発好明さんのオープンスタジオが始動しました!3ヶ月間のレジデンス期間中に制作した作品を使い秋葉原という土地ならではの風景を撮った映像作品を展示します。子供も大人も参加できるワークショップも随時開催します。会場では、開発さんが参加した過去展示会のカタログや作品も購入できます。

<会期>

オープンスタジオ: 2010年5月8日(土)~6月25日(金)

*アーティストが不在の時は外から制作風景を見ることができます。

展示期間: 6月26日(土)~8月8日(日)

開場時間: 12:00~21:00

<会場>

333I Arts Chiyoda 2階 203

主催: 333I Arts Chiyoda

<開発好明 作家プロフィール>

1966年山梨生まれ。多摩美術大学大学院修了。1998年以降、観客参加型の実験作品を中心にNY、ベルリンなどでのレジデンス生活を経て、現在日本で活動中。毎年3月9日に開催されている「サンキューアートの日」の企画者としても知られる。



333I Arts Chiyoda Residence Pilot Program Yoshiaki Kaihatsu

Residence Dates: 8 May (Saturday) - 8 August (Sunday) 2010 Open Studio Dates: 8 May (Saturday) - 25 June (Friday) 2010

Exhibition Dates: 26 June (Saturday) - 8 August (Sunday) 2010 Opening Hours: 10:00-21:00 Venue: 2F 203

*Throughout May the artist will not be present on a Friday. When the artist is not present you may view the open studio from the outside.

*Throughout the residence the artist will be holding a series of workshops and talk events.

"For Yoshiaki Kaihatsu, art is not an object, but interaction. It permits itself to be used, demands dialogue, can transform itself into services and makes offers to the audience." - (Künstlerhaus Bethanien) The work of Yoshiaki Kaihatsu is a pinnacle of playful wit, an intelligent humour reflected in his eclectic approach performance, installation and participatory actions. From the highly conceptual to the powerfully visceral Kaihatsu displays the ability to engage in a wide range of expressions, in which interaction between people plays an important role, as demonstrated in the renowned "365 Project" a year-long large scale cooperative project between members of the public, galleries and museums. Actively organizing exhibitions and operating artist initiatives, Kaihatsu himself has produced a residency exchange program between Hong Kong and Japan. Fads Art Space and gallery TEZZ are among his involvement. He is also the instigator of the now internationally acknowledged "Thank You ART DAY", "a holiday to appreciate, promote, and otherwise positively engage ourselves in contemporary art."

KAIHATSU Yoshiaki: Born in Yamanashi 1966. MA in Tama Art University. Since 1988, he has been energetically exhibiting works internationally. for more information please visit his web site: <http://www.yoshiakikaihatsu.com>

■ Kids's Workshop Date: 19th July (Monday) 13:00-16:00 Venue: Community Space 1/Deck Participation Fee: 500円 (includes workshop materials)

■ Kaihatsu Moving Image Screening and Talk Date: 31st July (Saturday) 19:00-22:00

Talk Guests: Yoshiaki Kaihatsu & Masato Nakamura Venue: B1F Screening Room Admission: 1,000 yen (includes 1 drink)

■ Workshop for Making a Workshop Dates: 8th July (Thursday) Lecture / Introduction of Kaihatsu's previous workshops 15th July (Thursday) Presentation / teams present their ideas and discuss 22nd July (Thursday) Preparation and practice 25th July (Sunday) Facilitation of Children's workshops 29th (Thursday) Review Time: 19:00-21:00 Venue: Community Space 1

A

大人向け連続ワークショップ全5回

『ワークショップのためのワークショップ講座』

「ワークショップのためのワークショップ」とは、参加者が数名でチームを作り、企画立案、準備、実行、その後反省会を含め、幼児向けワークショップの一連のプロセスを行うものです。

巷で見聞きするワークショップといえば、少し前までは工作教室っていわれ方をしていたのでしょうか?ここ数年で、子供達にまでこの言葉が浸透して和製英語のようにすら感じられます。

<ワークショップの心得 / その1>

僕がワークショップを行うときは、体験してうれしいことはもちろんですが、大げさに言えば、行ったワークショップが子供たちにとってどんな意義や変化をもたらすかを考えています。それは難しいことではなく、誰もが経験した出来事を思い出し、振り返れば容易に子ども達にとって必要なワークショップを探し当てる事が可能だと思います。

<ワークショップの心得 / その2>

僕が小学校4年生の時にクラスメイトの友人がチューリップの茎を茶色く描いて先生に怒られていました。子供ながらに松葉牡丹のようにデフォルメされた彼の絵は綺麗だと僕は見ていたのに。ここに僕のワークショップの原点があります。

緑の茎は緑なのか?

緑は緑だろ、と怒られそうですが、仮に三週間後、それは緑でしょうか?

(友人は見たままを描いて茶色になっていたとは思いますが)

ちょっとした意識のスライドによって、そこに存在していた大前提は崩れてしまいます。

ワークショップにできること、それは学校教育では行われないうこと、評価を与えないことです。

この大きな二つの心得を持って、各チームのワークショップが様々なアイデアで子供たちの笑顔を作ることを期待しています。(開発好明)

実施日: 2010年7月8日(木)、15日(木)、22日(木)、25日(日)、29日(木) 各回 19:00~21:00

講師: 開発好明(アーティスト) 会場: 2階 203

参加費: 10,000円(資料代、一部材料費なども含みます。)定員: 16名

日程: 7月8日(木) 過去のワークショップの事例を紹介。参加者でチームを分ける。

15日(木) 各チームで決まった内容をプレゼンしてディスカッションを行います。

22日(木) ワorkshop実践の準備と練習。

25日(日) 子供にむけてのワークショップの実践。

29日(木) ワorkshop実践後フィードバック。

応募方法は裏面をご覧ください。



333I
ARTS CYD

<http://www.333I.jp>

B

キッズワークショップ 『飛ばないタコ』

タコと聞いたら、何を思い出すだろう？
ゆらゆら泳ぐ海のタコ、風に乗って飛ぶ
空のタコを思いだしますね。

飛ばないタコと聞いたら？
海のタコは飛ばないし、空のタコは飛んでいるし。

そう、今回は空を見上げて見るものが
できないものを飛ぶものにしちゃう
ワークショップです。空に飛ばないもの
(例えばピアノやロボットなど)を模型で作り、
風船を使って大空に飛ばしてあげます。

不可能を感じさせない無限の可能性を秘めた子供たち
一人一人の想像力で飛ばないタコを飛ばします。

想像の世界から飛び出した、飛ばないタコ作りに挑戦です。

講師：開発好明(アーティスト)

日時：7月19日(月祝)a.13:00～、b.14:00～、c.15:00～

場所：1階 コミュニティスペース I/ デッキ

参加費：500円

定員：60名(各回20名)

誰でも参加できます。ただし小学生未満のお子様は保護者同伴をお願いします。

持ち物：はさみ、カッターナイフ、空き箱など(菓子箱、牛乳パック、刺身トレー、タマゴのパック、ハギレ etc...)
自分の作りたいものに合わせて材料をお持ちください。



C

開発好明関連映像資料上映会+トーク 『持ち寄り〇〇アート番組映像箱』

開発好明が1995年から1996年にかけて日本を巡った、1年間のプロジェクト『365大作戦』。震災や地下鉄事件と日本全土を揺るがす大きな問題がおり、泉谷しげるさんにラジオ出演時、「アートより支援だろ」と言われ、それを肌で感じたこともあった。その当時の映像を見ながらのトークを中心に、『365大作戦』と同ディレクターが制作した宮前正樹さんの関連映像、中村政人さんが仕掛けた『新宿少年アート』など、今なお“色あせない”と思いたい〇〇アートな映像を鑑賞する長い一日を準備しました。若かりし、あの作家。思い出深いあなたのあの時期。3331 Arts Chiyoda に見に来ませんか。

日時：7月31日(土)18:00～22:00

トーク出演：開発好明(アーティスト)、中村政人(3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター、アーティスト)

会場：地階 B105 定員：40名程度 トーク参加費：1,000円(1ドリンク付き)



■ イベントへの参加申込方法

メール：ws1@3331.jp FAX：03-6803-2442

● 件名にイベント名をご明記の上、本文に下記内容を記入してお知らせください。

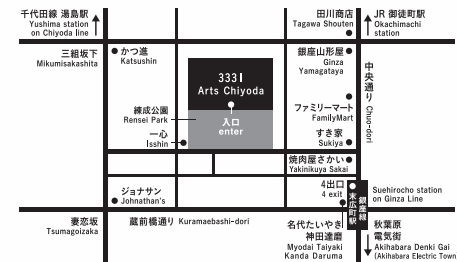
(1)お名前 (2)ふりがな (3)郵便番号 (4)住所 (5)電話番号 (6)Email (7)B. キッズワークショップ『飛ばないタコ』の希望参加時間 a～c を記入してください。

● 決定したワークショップの参加時間枠と集合時間など詳細をメールまたはFAXにてお知らせします。

● 当日はお知らせした日時に集合の上、受付をしていただきます。

● 2010年6月1日(火)より受付開始

● 締め切り：参加したい希望イベントの前日正午まで



東京メトロ銀座線末広町駅4番出口より徒歩1分
東京メトロ千代田線湯島駅6番出口より徒歩3分
JR御徒町駅南口より徒歩7分
JR秋葉原駅電気街口より徒歩8分

3331 Arts Chiyoda 〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14
TEL：03-6803-2441 FAX：03-6803-2442 E-MAIL：info@3331.jp